

内閣府が実施する防災研修

2017年1月19日

株式会社 サイエンスクラフト

竹本 加良子

内閣府が取り組む 防災スペシャリスト養成の 紹介

「防災スペシャリスト養成研修」の取組スタートの経緯

●中央防災会議「防災対策推進検討会議（平成23年10月設置）」 の最終報告（平成24年7月）

- 災害発生時対応に向けた備えの強化として
 - 「職員の派遣・研修を含む地方公共団体との連携」
 - 「国・地方の人材育成・連携強化」
 - 「政府の防災部門と地方との人事交流の機会の拡充」等を図るべきとの提言がなされた。
- 上記の提言を受け、平成25年度より国や地方公共団体等の職員を対象として、**危機事態に迅速・的確に対処できる人材**や**国と地方のネットワークを形成できる人材**の育成を図るため、「**防災スペシャリスト養成研修**」の取組を開始。
- 防災スペシャリスト研修は、国・地方公共団体の職員を対象に実施。

防災スペシャリスト養成研修の取組スタート時の2つのポイント

●中央防災会議「防災対策推進検討会議（平成23年10月設置）」の 最終報告（平成24年7月）

① 研修の標準化

- 今までの防災に関する研修は、研究者や有識者等が、それぞれの自論を教えるだけのものであった。（オールスター戦）
- これでは防災の全体の能力向上は図れない。
- もっと合理的に、みんなが努力をすればレベルが上がっていく研修にしなければならない。（高校野球のように）

② 対応力を強化する教育プログラム

- これまでの防災に関する研修は、ハザード（外力：地震、豪雨等）とハード対策による**予防に偏った教育**。
- 国や地方公共団体の職員にとってみれば、予防対策も大事だが、いざ災害が起こってしまった時点で、**迅速・適切に対応できないことが大きな課題と認識**。
- 災害発生の直前（警報避難）から応急対応、復旧復興に至るまでの対応力を強化する教育プログラムが必要。

防災スペシャリスト養成研修の取組スタート時の2つのポイント

●取組の特徴

- 実際に職員を対象に**施設研修**（有明の丘基幹的広域防災拠点施設）を行いながら、「**防災スペシャリスト養成**」**企画検討会**で、研修の実施に不可欠な災害対応に資する人材育成を育成するための方法などを検討し、その結果を有明の丘研修の場にフィードバックさせていくといった手法を用いている。

つまり、研修体系が完成してから研修を行うということでは、いつまでたっても何も進まないため、研修を実施しながら、その改善を通して検討するスタイル

防災スペシャリスト養成企画検討会の概要

●メンバー

- 林春男先生をはじめとした防災に関する研究者・有識者、教育に関する研究者、県市の自治体職員（設立時）といった多方面のメンバー（15名）で構成。

●インストラクションデザインを枠組みとした検討

- 研修の標準化を目指し、**インストラクショナルデザイン**を踏まえ、研修方法・内容を検討している。

- **インストラクションデザイン**とは、それぞれの環境において、高い教育効果をあげる方法の設計を行うための**教育設計の方法**。米軍を始め多くの実務教育場面で活用されている。
- インストラクショナルデザインは、業務遂行能力を高めるために必要な、**知識・技能・態度**を習得するために、「**学習目標**」（=**研修・訓練修了時に学習者が獲得している能力**）を設定することを重視する。

防災スペシャリスト養成企画検討会の概要

●学習目標の整理

- 防災スペシャリストが身につけるべき能力を**学習目標**という形で整理し、**それが修得されたか否かを評価**することで、研修プログラムを効率的に作成

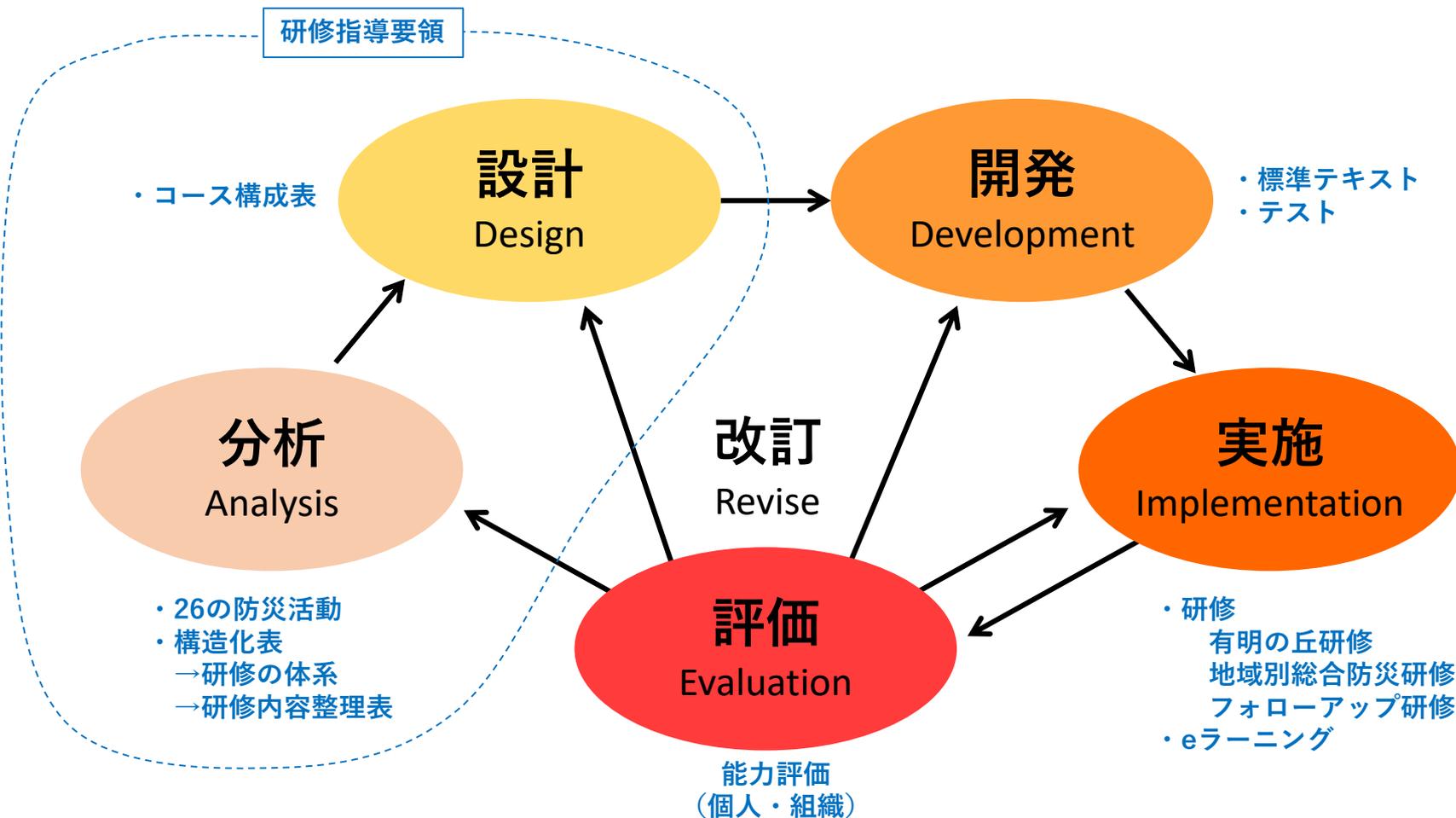
●設計のサイクル（**ADDIEプロセス**）

- インストラクショナルデザインでは、基本的に、以下の5つの手順をサイクルとして研修や訓練を設計し、改善を図る。

- ① **「分析」**（研修の目的や要件を洗い出し、必要とされる能力（コンピテンス）を明らかにする）
- ② **「デザイン」**（学習目標の設定、教材やツール等の要件定義する）
- ③ **「開発」**（要件定義に基づき、研修で用いる教材やツールを開発する）
- ④ **「実装」**（教材やツールを利用した実際の研修を実施する）
- ⑤ **「評価」**（研修全体や教材などの問題点を洗い出し、改善を行う）

インストラクショナルデザイン※1の枠組みを活用した研修内容の検討

－ADDIE（アディー）プロセス※2を用いた研修内容の検討－



※1) インストラクショナルデザインとは、学習者の意図的学習を効果的に促進するために研修・訓練を設計するための考え方であり、教えることのプロセスに重点を置くのではなく、学習のプロセスを支援することに焦点をあてている理論。教育心理学、教育工学における主要理論の一つ。eラーニングなどでも多用されている考え方。

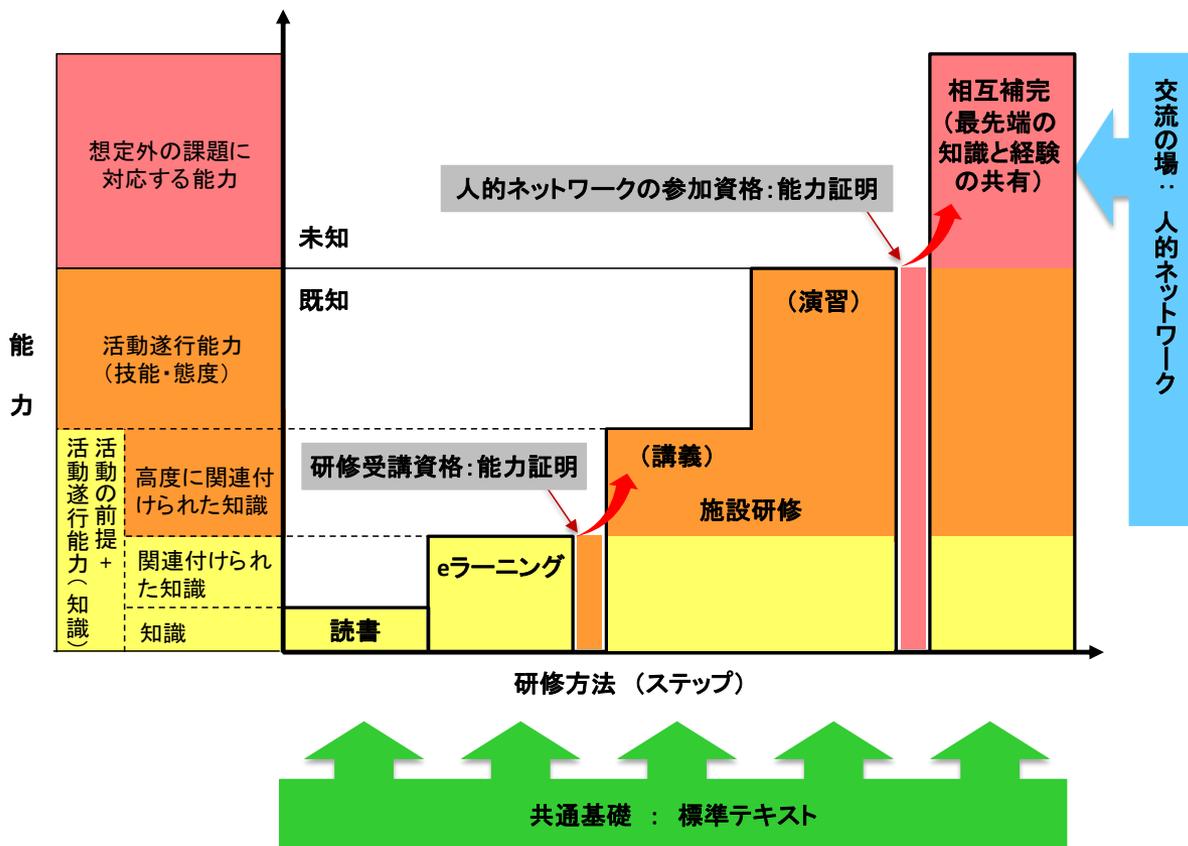
※2) ADDIE（アディー）プロセスとは、教育システム設計（研修・教材づくりの具体的な順番を開発するプロセス）の最も基本的なモデル。Analysis（分析）、Design（設計）、Development（開発）、Implement（実施）、Evaluation（評価）の5つの段階からなる。

参考：R.M.ガニェ、W.W.ウェイジャー、K.C.ゴラス、J.M.ケラー著、鈴木克明・岩崎信監訳「インストラクショナルデザインの原理」（北王子書房 2007年8月31日発行）

個人の能力を高める仕組み

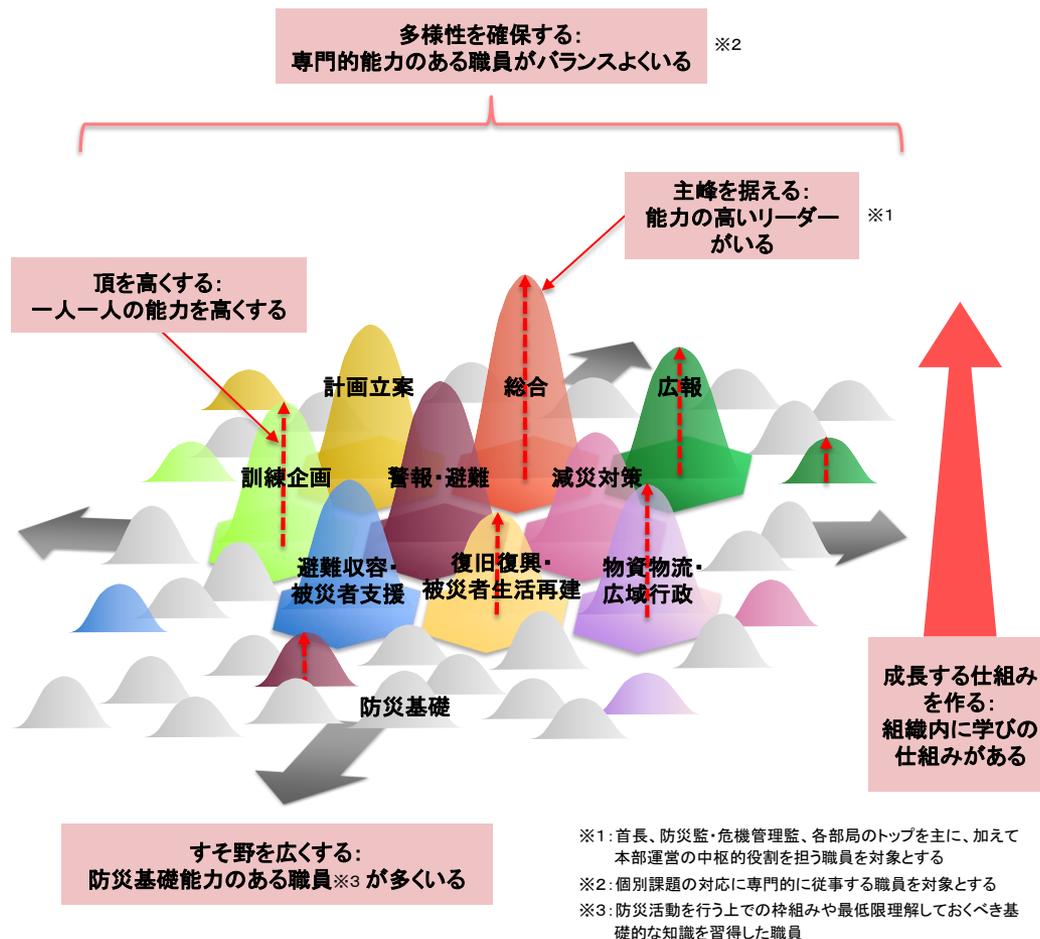
- 段階的に個人の能力を高めるという観点から、「各研修方法の特性」を基に、個人の能力に合わせた研修方法を検討し、その上で、研修を通じて身につけた能力を証明する段階や方法を下図のとおりとした。

各種研修方法の特性を生かして、段階的に能力向上を図る



対応力(人)を高める仕組み

- 組織の能力を高めるためには、対応力（人）に着目し、「主峰を据える」「多様性を確保する」「すそ野を広くする」「頂を高くする」「成長する仕組みを作る」という5つの観点から仕組みをつくる。



「防災スペシャリスト養成」カリキュラム

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）の各コースの概要



自然災害に備えて 防災スペシャリスト養成研修（有明の丘）

平成28年度 第2期

内閣府（防災）

内閣府（防災）では、「危機事態に迅速・的確に対応できる人」、「国・地方のネットワークを形成できる人」を「防災スペシャリスト」に求める人材像と定め、国や地方公共団体等の職員を対象とした「防災スペシャリスト養成研修」に取り組んでいます。

その一環である有明の丘基幹的広域防災拠点施設を会場として実施する本研修は、防災スペシャリストに求められる知識と能力を、災害リスクや防災に関する法制度などの基礎的な内容から災害対策の個別課題、災害対策本部運営のための技術を体系的に学ぶことができます。

■会場

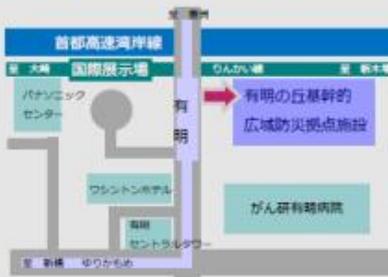
有明の丘基幹的広域防災拠点施設

東京都江東区有明3丁目

- アクセス
りんかい線 国際展示場駅より徒歩4分
ゆりかもめ 有明駅より徒歩2分

平成29年 開催日程 (1/24~3/1)

日	月	火	水	木	金	土
1/22	23	24	25	26	27	28
		防災基礎				
29	30	31	2/1	2	3	4
		警報避難		応急活動・資源管理		
5	6	7	8	9	10	11
		被災者支援		災害への備え		
12	13	14	15	16	17	18
		復旧復興		指揮統制		
19	20	21	22	23	24	25
		対策立案		人材育成		
26	27	28	3/1	2	3	4
		総合防災				



有明の丘基幹的広域防災拠点施設は、首都圏下地層等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害対応本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害現場の支援基地として、東京臨海副都心（川崎市）の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。



主催 内閣府（防災）

企画・運営

Science Craft
株式会社サイエンスクラフト

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

ホームページ：<https://bousai-ariake.jp/>

2017.1.6